

西村大臣記者会見要旨

令和2年9月28日（月）15時23分～15時45分（22分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）お待たせしました。まず動画のメッセージなのですが、10月1日から「G。T。トラベル事業」に東京発着が追加されます。イベントの緩和なども行ってきております。こうしたことについて、25日の金曜日での分科会での議論も踏まえた、私からの国民の皆様へのメッセージを内閣官房の特設サイトに公開しておりますので、御覧いただければと思います。様々サポーターの皆さんからのメッセージも掲載しておりますので、ぜひ見ていただければと思います。

それから、明日、大都市の歓楽街における感染拡大防止対策のワーキンググループの第2回を開催いたします。

第2回の明日は、通常時から取り組む対策、すなわち、新宿あるいは那覇などで取組が行われてきましたけれども、まさに事業者の皆さん、あるいはそこで働く方々との信頼関係を構築しながら、感染症対策の理解を深めていくということ。それから日常からの相談、あるいは検査の体制など、感染拡大防止のための環境づくりに向けた取組について、検討していただくことにしております。

明日は現場の方の生の声を聞くということで、ガールズバーを営んでいる方、あるいは歌舞伎町商店街振興組合の方、それからホストクラブのグループを営んでいる方、こういった方々からもヒアリングを予定しております。また、新宿でHIV、エイズをはじめとした情報の提供センターを運営しているNPOの方をお招きして、御意見を聞くことにしております。

それに関連しまして、先週末、そしてこの週末、福岡・熊本に行ってみりました。福岡では、ちょっと早い段階でしたね、6月末に450件の検査をこの中洲の地区で呼びかけて行っています。

ただ、店の数自体は非常にまだ多い数がある、働いておられる方はるかに多い方がおられるんですけども、このぐらいの件数であったということで、現場の担当者の声も聞きましたが、検査を受ける場所が中洲の繁華街からバスに乗って行か

なきやいけないとか、時間帯が昼間しか開いていないとか、そんなこともありましてということで、今後の取組として、やはり繁華街に近い場所で、そして相談しやすい、気軽に受けられるような場所、それから時間帯も夕方以降など、工夫をする必要があるんじゃないかということの御意見をいただきました。

福岡市にもこのワーキンググループに入っていていただいていますので、そうした経験なども踏まえて、今後の対策に取り組んでいきたいと考えております。

また、熊本の下通の繁華街でクラスターが8月に発生いたしました。熊本市におきましても、店舗に幅広く呼びかけておきまして、現在240人ぐらいの方に検査を受けてもらっているということでもあります。熊本の場合は、PCR検査場を設けて、風評被害とか個人への攻撃にならないようにということで、分かりにくい場所に検査場を設けて、幅広く呼びかけて検査を行っています。

こういった取組なども参考にしながら、今後、どういう形で信頼関係をつくり、多くの方に検査を受けてもらうか、あるいはいざクラスターが発生した場合に、こういった形で幅広く検査を受けてもらうか、それぞれの規模に応じて必要な件数が出てくると思いますので、このあたりの分析を急いでいるところでもありますし、明日もそれぞれの自治体に入ってくださいますので、大都市の自治体の皆さんにも入っていただいていますから、実際に事業者の皆さんを交えてしっかりと議論をしていければと考えています。

それから、イベントの方なのですが、映画については、食べ物を提供しなければ、飲み物だけであれば50%の要件を緩和して100%入れても良いと。マスクをして、消毒液などもあちこちに置いてもらって消毒もしてもらって、静かに映画を見ているのであればリスクは非常に低いということで、そういう緩和をしたところではありますが、ポップコーンとかを食べる場合には、長い時間にわたってマスクを外して食べるわけですね。ですから、飛沫が飛ぶ可能性があるということで、その場合には2分の1を守ってくださいということでお願いをしているところではありますが、映画業界から規制緩和の要望がありまして、食べている場合でももう少し緩和ができるんじゃないかということで、今後、映画業界も研究をしたいということでもあります。私どももまた、AIを使ったシミュレーション、スパコンを使

ったシミュレーションなどを進めていきたいと考えているところでもあります。

どんどんいろんな知見、新たな研究成果や新たな知見も得られていきますので、経済との両立を図る、感染防止策を徹底していただきながら、経済社会活動、文化活動、スポーツ活動との両立を図っていくという観点で、引き続き様々な研究の取組、また内外の研究の知見の成果を生かしていければと考えております。

それから、屋外のイベントにつきましては、今1メートルの距離はとってもらうようお願いをしているところでもあります。が、先般、浅草の仲見世通りなども歩かせていただきましたけれども、じっとしているわけじゃなくて、ずっと歩いていますので、皆さんマスクをして、お店も消毒液を置いて消毒しながら、あるいはビニールのカーテンのようなものを引かれたり、アクリル板を置かれたり、それぞれ工夫をしながら感染防止策に取り組みながら、経済活動との両立を図っています。

私も見たところ、感染リスクを非常に抑えながらやっておられるなという印象を持ちましたけれども、実はこの週末、福岡県の太宰府にも寄りまして、太宰府の皆さん方からは、初詣を非常に心配しているところでもあります。同様の趣旨は神社庁からも伺っているところでありまして、この春から、この間、様々な神社へのお参りも非常に少ない中で、神社自体も厳しい状況に置かれています。まさに参道の商店街も歩きましたけれども、かなり厳しい状況で、ようやくこの9月半ばぐらいから、連休あたりから人出が増えてきたということで歓迎をしておられましたけれども、皆さんが心配しておられるのは、この秋祭りはなかなか各地ともに、私の地元もそうですけれども、本来なら神輿を担いでというところでしょうけれども、1メートルの距離をお願いしていますので、皆さん自粛をされているところが多いようでもあります。年末年始の年越しから新年にかけての初詣、通常であればかなりの人出になるわけですが、どのような形で行っていただければ良いのか。個人的には、やっぱり日本人の年始の行事としてお参りしたいなと、私も毎年お参りをさせていただいていますけれども、多くの皆さんがそう思っておられるんじゃないかと思えます。

感染防止とどう両立できるのか、屋外でのこうした活動についても、引き続き検討を進めていきたいと思っておりますし、

専門家の皆さんにも検討をお願いしたいと考えているところ
あります。

いずれにしても、様々な内外の知見、それから、この連休に
あちこちでかなり人出が出ておりますので、これがどういった
影響を及ぼすのか、あるいは海外でも緩和するところもあれば
厳しくするところもあるという中で、そういった内外の様々な
状況を見ながら、また研究成果も見ながら、そして、さらにス
パコンや人工知能を使った研究も進めながら、専門家の皆さん
の御意見をいただければと考えているところでもあります。

いずれにしても、感染防止策を徹底していくということが大
事であります。両立をしていくために、「新たな日常」を作っ
ていくと。徐々に定着をしてきたと認識しておりますが、ブレ
ーキを一遍に上げてアクセルを全開にするのではなくて、徐々
に上げながら、ブレーキも少しずつ踏み込んでいく、いろん
なことに慣れながら、多くの国民の皆さんに感染防止策と経済
の両立の定着をさせていただきながら、何とか両立を実現し
ていければと考えています。

ぜひ引き続き、国民の皆様には感染防止策を徹底するという
ことがまず基本でありますので、マスク、消毒、換気、大声を
出さない、3密を回避する、こういったことの取組をお願いし
ながら、事業者の皆さんにはガイドラインを守っていただくと。
感染防止策を講じていただきながら、経済活動との両立を図
っていくということが大事だと考えています。

よく申し上げますが、スポーツクラブでもガイドラインを守
っていただいて、その後、クラスターは発生しておりません。
しっかり守っていただければ事業との両立、継続はできるわけ
でありますし、飲食店でも、一般の飲食店で何かお客さんと従
業員の方の間でクラスターが発生したということも聞いており
ません。

この二、三日、千葉だったと思いますが、マスクをせずに、
外国人のグループが、外国人のレストランでそういった発生が
ありますけれども、例外的でありますし、宮城県のお寿司屋さ
んで発生がありました。マスクをしていなかった、あるいは
一緒に飲みに行ったりしたということでもありますので、例外的
な事例はありますけれども、きちんとガイドラインを守って、
そして利用される皆さんも感染防止策を注意していただきな
がら対応していただければ、普通に食事をしている分にはリス

は非常に低いということも分かっております。

もちろん大人数で飲み会のようなことをやって、マスクを外して大騒ぎをすればクラスターは発生してはいますが、お店の従業員の方とお客さんの間で何か感染が、やりとりがあったということは報告を受けておりませんので、きちんと守っていただければそうした活動も両立ができるということでもあります。

同様にスーパーでも、スーパーの従業員の皆さんと買い物する方の中で、何かクラスターが発生したというようなことも報告を受けておりません。従業員の皆さんが休み時間の間で何か一緒に食事をしたり、会話をすることによって、従業員さんの中でクラスターが発生したという事例はありますけれども。申し上げたいのは、しっかりと感染防止策を講じていけば、日常生活あるいは経済活動との両立は可能だということでもありますので、ぜひみんなで感染防止策を講じながら、そうした「新たな日常」を作って、経済との両立を図っていければと考えています。

それから、新規陽性者の数につきましては、昨日は全国で478名であります。傾向を見ますと、もうポイントのみを申し上げますが、東京都は7月末をピークに、これは発症日ベースで見て、下がってきているのは間違いないのですが、9月の半ばで少し上がってきている部分もあります。全体としては下がりが少し緩やかになっているということでもあります。発症日ベースの数字は、連休中、ちょっと検査件数が少なかったりしますので、後ろにかなり倒れると思いますので、このあたり、19日、17日あたりの積み上がってくるんじゃないかと思いますが、この下がりがもしっかり見ていかなきゃいけないと思っております。

陽性率も4%ということ、大きく上がっているわけではありませんが、よくこのあたりも見ておかなきゃいけないと思っています。

そして、60代以上の方もちょっとこの1週間は増えていますので、よくこのあたりは見ておかなきゃいけないと思っております。

重症者の数、全体の。これは、検査件数は今申し上げたところですね。沖縄も2.8%とちょっと上がっていますが、検査がちょっと少なめです。福岡が0.6%台、大阪も5%台で

ほぼ横ばいのような形であります。

それで、先ほど申し上げた重症者の数ですけれども、東京都は東京都の基準でいうと29ですけれども、国の基準でいうと119で、全体は500ありますので、このあたりはまだ大丈夫です。病床も28.9%でありますので、他のところを見ていただいても、沖縄もかなり落ち着いてきています。

ステージⅢ、ステージⅣの指標を見ていただいても、東京は少し超えています。10万人当たりの療養者はほぼステージⅢの基準、PCRの基準はかなり少ない、新規の報告者の数もかなり少ないということで、幾つかステージⅢの指標を示していますので、よく見ていかなきゃいけないと思います。あとは大体、沖縄の重症者のところは少し注意しなきゃいけないけれども、大幅に上回って第Ⅳステージになっているということではありません。このあたりはよく数字を見て、各県とも連携をとりながら対応をしていければと考えております。

私からは以上です。

(問) よろしく申し上げます。新型コロナウイルス感染症に対応するための経済対策について伺いたいと思います。

昨日、NHKの「日曜討論」ですが、自民党の下村政調会長が、悪化している雇用情勢を下支えするために追加の経済対策の策定を検討する考えを示されました。持続化給付金や雇用調整助成金の特例措置、また家賃支援給付金、これを継続、または追加給付するために、予備費で足りない場合は3次補正予算の是正の必要性についても言及されました。

大臣は現在、現時点で追加の経済対策、または3次補正の必要性についてはどのようにお考えでしょうか。よろしく申し上げます。

(大臣) 私は、テレビは見ていなかったんですけれども、下村政調会長が今、御指摘のような趣旨の御発言をされたということとは報告を受けております。菅総理からは、私に対しては、感染防止対策と経済活動の両立をしっかりと図るようということとで指示をいただいております。雇用を守り、事業を継続するために、必要に応じて躊躇なく、臨機応変に時機を逸することなく対策を講じ、経済財政政策に万全を期すようという指示をいただいているところであります。

そうした御指示のもとで、今申し上げたような感染の状況と

か経済の指標、これは日次で出てくるものもありますし、週次で週ごとに出てくるものもありますので、様々な指標を毎朝チェックしながら、また内外の様々な経済情勢のデータ、あるいは報告なども受けながら、緊張感を持って対応をしているところでもあります。

予備費はまだ約8兆円近くありますので、そうしたことも念頭に置きながら、御指示のとおり、臨機応変に対応すべく、緊張感を持って見ているところでもあります。

党は党のほうで、様々な声を、党のそれぞれの議員は地元なりいろいろな団体からもいろいろな要請も受けていると思いますし、私自身も各地で経済団体などからいろいろな意見を伺っております。それぞれ、党は党で様々な声を拾っていただきながら、そうしたものも踏まえていただきながら、政府与党で連携して対応していければと考えているところでもあります。

(問) 金曜日の分科会で専門家の方から、小規模分散型旅行の推奨に絡んで、ダイナミックプライシングの強化、平日と休日の利用者平準化のための制度設計を取り決める声があります。政府は現時点で消極的なようですが、改めてこうした意見にどう対応されるお考えか、お聞かせください。

(大臣) 消極的ということではないと思います。かつてから休みを分散すべきじゃないとかこういった議論はなされてきておりますし、民間は民間で、いわゆるダイナミックプライシングといわれますけれども、需要の多いときには価格は高くなり、需要が少ないときに値段を下げるという、こういった取組が既に民間の旅行商品では行われておりますので、様々な、宿泊施設、旅行代金など、やっぱり連休とかゴールデンウィークとかお盆の時期とかは高くなるということは、多くの皆さんが感じておられると思います。

そういった民間が取り組んでいることに加えて、政府としてこういったことができるかということは、分科会からの、いわば宿題としていただいておりますので、これはこれで観光庁において、あるいは私のところでも様々な経済的な手法もありますので、こういったことが考えられるのか、制度面も含めて、これは検討していかなきゃいけないと思っております。

一つには、休みを分散して取れる、働き方改革の一つのテーマでもあると思います。みんなが一緒に同じ連休のときに休む

と、当然そこは混雑しますし、密にもなるし、それから値段も高くなるということでもあります。「G。T。トラベル」の仕組みにおいても何かできないのかといったようなことも含めて、観光庁においても、あるいは政府全体でこれは取り組んでいかなきゃいけないことだと思っておりますので、しっかりと議論していきたいと考えています。

ありがとうございました。